

## 「第78回あつぎ鮎まつり」で募集広報活動



「南極の氷」に喜ぶ子供達



賑わう「南極の氷」

自衛隊神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 明神忠雄3等海佐）は、8月3日（土）、4日（日）の両日、厚木市で開催された「第78回あつぎ鮎まつり」において自衛隊ブースを出展し、厚木管内自衛官募集相談委員会及び隊友会県央支部の協力を得て募集広報活動を行った。

初日は「南極の氷体験」を実施し、来場者は南極の氷に手を触れると、「すごい冷たい」、「手のひらがプチプチする」といった驚きの声を上げ、氷の由来に「歴史やロマンを感じる」と話す方もいた。翌日は「缶バッジ手作り体験」を実施し、子供たちは、厚木市の「あゆこちゃん」や神奈川地本の「はまにゃん」などのマスコットキャラクターを用いた種類のデザインから好きなデザインを選んで自分で缶バッジを作成した。缶バッジが完成すると保護者たちは、「すごい」、「かわいい」と言いながら、早速、子供たちのシャツやバッグに付けて写真を撮っていた。

また、自衛隊への入隊を希望する方やその保護者の方などもブースに訪れ、広報官は入隊制度や受験要領等について丁寧に説明した。

鮎まつりの2日間、自衛隊ブースは多くの来場者でにぎわい、様々な「体験」を通じて自衛隊への理解を深めてもらうことができた。中には「自衛隊、頑張ってる」などの励ましの言葉を掛けてくれる来場者もいて、広報官たちは心を熱くした。

厚木募集案内所は、「今後も地域のイベントを通じて地域に根ざした募集広報と防衛及び人的基盤の拡充に努めていきたい」としている。

## 現役防衛大学生による説明会を開催



自衛隊神奈川地方協力本部川崎出張所（出張所長 宮城英明1等陸尉）は、8月5日（月）、川崎出張所から入校した防衛大学校1年生を迎え、防衛大学校説明会を開催した。当日の参加者は3名で全員18歳。進路をしっかりと見据えており、防衛大学校のリアルな話を聞きたいと集まった。

防衛大学校には対番制度があり、入校してから先輩が手とり足とり教えてくれることや、授業の内容、休日についてなど、現役学生目線での説明が行われ、参加者は一つ一つ聞きながら聞いていた。

質問タイムの際には、「パソコンは自分で購入するのか」、「漫画の持ち込みは大丈夫か」、「ぬいぐるみや抱き枕は持ち込んで良いか」などの生活に関する内容から、試験時の面接で聞かれたことや学生生活での集団生活など、様々な方面について質疑が行われ、参加者それぞれの不安を解消していた。広報官も、参加者からの「目からうろこ」の質問に学ぶことがあり、有意義な説明会となった。

川崎出張所は、「参加者の不安や疑問が解決できる良い機会となった。今後もサポートを続け、一人でも多く防衛大学校への合格者を増やしたい」としている。

### ここだけの「防大話」教えます

この春、川崎出張所から巣立った防衛大学校1年生が来所し、将来の進路の一つに「防大」を候補に入れて3名の方に説明会を行いました。最初は自己紹介をして緊張のスタートでしたが、防大の説明を時に裏話を交えた説明で、だんだん皆さん笑顔になり、教育内容、食事内容、生活内容と、細かいことまで、突っ込んで聞いていました。

校友会（部活）の説明では、4年間続くものなので、しっかり選ぶという説明から、横須賀周辺では、防大生割引がたくさんあるという内容まで幅広く、最後は、募集要項を見ながらのアドバイスで、とても充実した説明会となりました。

翌日は学校訪問として出身高校へ行き、防大の魅力の説明しました。先生は防大の制服姿に感動し、自衛隊や防大に興味がある生徒に勧めてくれると、にっこり笑顔でした。